

「臨床指導医ガイド」

今井 裕一 編集
 今井 裕一
 遠藤 正之 著
 大生 定義
 吉岡 成人

虎の門病院循環器センター内科医長

西 山 信一郎

従来のわが国の卒後教育には一貫性がなく、特に大学病院では研究至上主義がまかり通り、またマンパワーの不足もあり卒後教育は片手間に行われ、研修医は単なる労働力、雑用係として扱われてきたのではなかろうか。また最近では専門医指向が強くなり、卒後直ちに自分の興味のある狭い範囲の専門分野の研究にのみ従事し、幅広い内科疾患全般に対応できない若手医師が増加していることも医療不信の原因の1つと考えられる。これらの反省からか、わが国でも2004年から卒後臨床研修の2年間の必修化が制定されたことは喜ばしいことと考えるが、必修化にあたっては、研修医の身分保障、給与の確保、研修内容、指導医の養成など多くの問題点を解決する必要がある。

いずれにしろ卒後臨床研修の必修化はもう間近に迫ってきたわけであるが、指導する立場にある医師の心

構えはできているであろうか。いざ指導医の立場に立っても、自分自身が受けてきた教育が悪ければ、今後研修医をどのように指導していけばよいのか見当もつかないというのが現状ではなかろうか。

このような状況で今回医学書院から「臨床指導医ガイド」が刊行されたことは、まさに時期を得たものと言えよう。この本の内容であるが、前半は研修医からの信頼を勝ち取るための基本編として、患者さんとの対応の仕方、病歴要約の記載法、回診での指導法、コンサルテーションや文献検索の方法、EBMの基本的な解説、患者や医療関係者とのトラブルの解決法までが、執筆者たちの座談形式やQ&A方式を取り入れて具体的に解説されており、今後研修医を指導する若手医師には大いに参考になるものと思う。後半は信頼を勝ち取るための実践編となっており、実際に研修医が遭遇する機会が多

く、かつ初期治療が重要な疾患が厳選されており指導医の知識の整理に役立つよう組み立てられている。

執筆者は編集された今井先生をはじめいずれも20年間にわたり臨床と研修医の教育に従事してきた内科専門医であり、まさに臨床指導医ガイドとして適任の方たちである。彼らが良き臨床体験を積んできたことは随所に挿入されたコラムを読めば理解されよう。本書は指導医には格好のガイドブックであり、研修医をいかに指導しようかと悩める卒後数年目の若い医師だけではなく、卒後研修に関わる各科の専門医や上級医師にも一読をお勧めする次第である。

● A5 頁224 図10 写真1 表21
 2001 定価(本体2,800円+税) 送料実費

—医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)